

巡回健康診断業務処理要領

1 実施日程及び受付時間

(1) 実施日程

別紙「令和6年度(2024 年度)巡回健康診断日程表」のとおり

(2) 受付時間

原則として午前8時 30 分から 11 時までとし、個別事情のあるものは、別途定める。

(3) 日程及び受付時間の変更等

災害等により、日程及び実施会場等の変更、中止又は延期が必要な場合は、別途協議する。

2 実施会場

別紙「巡回健康診断実施会場一覧」のとおり

3 検査項目

別紙「検査項目及び健診対象者」のとおり

4 実施方法

(1) 受注者は、2の実施会場において、検診車を用い健康診断を実施すること。

(2) 受注者は、労働安全衛生その他関係法令等に基づき、適切な健康診断の実施に努めること。

(3) 受注者は、基本的な感染症予防対策を行い、安全で円滑な健康診断を実施すること。また、具体的な対策については、発注者及び各実施会場担当者と調整すること。

(4) 受注者は、契約締結後速やかに健康診断の具体的な実施方法を記載した実施マニュアル(以下「マニュアル」という。)を作成し、発注者の確認を受けるとともに適切に実施する。

また、発注者から実施方法の改善等の指示があった場合は、すみやかにマニュアルの修正等を行う。

5 健診対象者データ等の作成及び授受

発注者は、次の巡回健康診断の健診対象者データ等を作成し、2の実施会場ごとの健診開始日の4週間前までに、受注者へ交付する。

ア 一般定期・生活習慣病・(管理)健康診断対象者名簿 (別記第 6 号様式)〈紙、電子媒体〉

イ 健康診断受診票 (別記第 8 号様式)〈紙媒体〉

ウ 管理健康診断依頼書・管理健康診断受診票 (別記第 14 号様式)〈紙媒体〉

6 実施要領

(1) 受診票(問診票)及び健診に必要な容器(尿検査及び便潜血反応検査)等の送付

受注者は、受領した健診対象者データ等を確認後、2の実施会場での健診開始日の3週間前までに、5のイ、ウ及び自宅等で検体の採取が可能な尿検査容器(採取用カップを含む)、便潜血反応検査容器等を個人毎に封入し、5のアとともに、別紙「受診票及び結果通知送付先一覧」のとおり送付する。

(2) 健康診断等実施会場の確認

受注者は、各実施会場の担当者と事前に連絡を取り、会場や実施方法及び資機材等の確認を行うこと。

(3) 資機材の搬入及び設営

受注者は、各実施会場へ自社所有の検診車(胸部エックス線及び胃部エックス線)及び必要な資機材を搬入し、実施日の前日夕方までに会場を設営すること。前日が日曜日及び祝日の場合は、当該所属担当者の指示に従うものとする。長机、椅子及び電源等については、原則として各実施会場で提供する。

(4) 医師、看護師等

受注者は、各実施会場へ巡回健康診断の実施に必要な数の医師、看護師等(以下「健診業務員等」という。)を各地区毎に固定し、派遣すること。

(5) 主任者の選任

受注者は、業務処理を明確にするため、各地区毎に健診業務員等の中から1名を主任者として選任すること。

なお、主任者は3年以上の健診実務経験を有すること。

(6) 健康診断の受付名簿等の作成

受注者は必要に応じ実施当日の受診者の受付名簿を作成すること。

また、5のアの名簿に記載されていない職員(臨時職員)の健康診断を受け付けた場合は、別途指定す

る様式(「健康管理マスター職員番号登録簿」)に記入し、一週間毎に取りまとめ、速やかに発注者に報告すること。

(7) 廃棄物の処理

健康診断の実施に伴う廃棄物(採血針、検尿カップ、脱脂綿等)は受注者が回収し、適正に廃棄すること。

(8) 受注者名等の明示

受注者は、健診実施会場において、健診業務員等に受注者名、職種名及び氏名を明記した名札等を着用させること。

(9) 機器の整備

健診に使用する検査機器(放射線装置(IIを含む。)、オージオメーター、心電図計等)は、適正に整備を行うこと。

(10) 健診事故等の対応

健康診断実施の一連の行為の中において、健診事故及びトラブル等が発生した場合は、受注者は、健診会場の管理責任者に報告し、総力を挙げて事態を收拾するとともに、事態の大小にかかわらず、速やかに道に報告すること。

また、健診事故等の收拾及び再検査等に費用が発生した場合は、受注者の負担とする(発注者に重大な過失があるときを除く。)。

7 検査の方法

(1) 診察

ア 診察については、労働安全衛生法に定める健康診断及び特定健康診査の実施において必要と認められる診察を行うこと。

イ 健康診断問診票で「現在タバコを吸っている」と回答した職員に対し、医師から直接禁煙の勧奨を行うこと。

(2) 血圧測定

測定値の再現性を確保するため、電子血圧計を使用すること。

(3) 尿検査

受診する職員は、受診日当日に検体を採取し受付へ提出するが、容器を忘れた場合等は健康診断中の採取も可能とすること。

(4) 心電図検査

ア 臨床検査技師は、心電図検査に1年以上従事した経験を有するものとする。

イ 1枚(1人)毎に校正波(キャリブレーション)を入れること。

ウ 検査時に不整脈を見つけた場合は、記録時間を適宜延長すること。

(5) 胃部エックス線検査

ア 診療放射線技師については、胃部エックス線検査に3年以上の実務経験を有し、かつ自社の検診業務に引き続き2年以上従事しているものとする(一般社団法人日本消化器がん検診学会の胃がん検診専門技師認定者であること。)。

イ 撮影の体位及び方法は、一般社団法人日本消化器がん検診学会の方式による。

ウ 造影剤の使用に当たっては、その濃度を適切に保つ(180~220W/V%の高濃度バリウム、120~150mlとする)とともに、副作用等の事故に注意すること。

(6) 便潜血反応検査

ア 検体は回収後即日検査機関へ引き渡すことを原則とする。

イ 受診者から検体を回収してから自施設で検査を行うまでの間、あるいは検査施設へ引き渡すまでの間、冷蔵保存すること。

ウ 検診機関では検体を受領後冷蔵保存すること。

8 健康診断結果の判定

受注者は、健康診断の結果判定を次のとおり行うこと。

(1) 読影

ア 胸部

読影は胸部レントゲン写真の読影に3年以上従事した経験を有する複数の呼吸器科の専門医による二重チェックを行うこと。なお、健診開始前に読影医師の名簿と経歴書及び医師免許証の写しを提出すること。(呼吸器に関連する学会の指導医、認定医、専門医等であることが望ましい。)

イ 胃部

読影は胃部のバリウム写真の読影に3年以上従事した経験を有する複数の医師による二重チェック

を行うこと。なお、健診開始前に読影医師の名簿と経歴書及び医師免許証の写しを提出すること(うち一人は、消化器に関する学会(例:日本消化器がん検診学会、日本消化器病学会、日本消化器外科学会、日本医学放射線学会など)の指導医、認定医、専門医等とする。))。

(2) 心電図

心電図の判定は、自動解析装置で判定するだけでなく、心電図判定に3年以上従事した経験を有する専門医師による判定を行うこと。なお、健診開始前に判定医師の名簿と経歴書及び医師免許証の写しを提出すること。

(3) 比較読影

要精検と判定するときは、比較読影すること。判定において、過年度分のフィルム等が必要な場合は、発注者に報告し、フィルム等を取り寄せること。

(4) 血液

血液の判定については、尿酸、酵素、脂質、糖質、腎機能、白血球、赤血球、血小板の区分毎に行う。

(5) 外部委託

ア 臨床検査

各健診項目の検体検査を外部の検査機関に委託するときは、入札参加資格審査申請の際に添付した委託契約書(検体検査の外部委託)に記載している契約検査機関に検体検査を実施させること。

イ 読影

胸部又は胃部の読影の外部委託は行わないこと。

(6) その他

ア その他の健診項目の判定基準等については、別途、発注者が指示する。

イ 問診票の記載内容を十分確認の上、判定を行うこと。

ウ 判定等の際に至急精密検査が必要と思われる場合は、電話・ファックス等で、直ちに発注者に報告する。詳細は、別途発注者が指示する。

エ 健診開始前に、診察医師の名簿と経歴書及び医師免許証の写しを提出すること。

オ 発注者から、診察時等に職員に対して健康診断に関する情報提供等を行うよう指示があった場合は、これに対応すること。

9 健康診断実施結果データ等の提出及び授受

受注者は、8において実施した判定結果を、発注者が指定する電子データの様式及び健康診断受診票(以下「健診結果データ等」という。)に記入すること。

なお、健診結果の記入・入力に当たっては必ず複数の者によるチェックを行い、入力ミスのないように努め、入力後もミスがないか入力データの再チェックをすること。

健診結果データ等は1週間毎(月～金曜日)に取りまとめ、実施年月日、所属名、受診人数等を記載した目録を添えて発注者に提出すること。

また、健診結果データ等の提出期限は、各週の最終健診日から起算して3週間後の金曜日(閉庁日の場合は翌開庁日)までとすること。

発注者は、健診結果データ等と目録を受領した場合は、内容を確認の上、受注者へ受領書を交付する。

10 健康診断実施結果の出力及び送付

(1) 健康診断実施結果の出力

発注者は、受領した健診結果データ等に基づき、次の結果を出力し、受注者に交付する。

- | | |
|------------------------------------|----------------|
| ア 一般定期・生活習慣病健康診断の結果及び精密健診該当者名簿 | (別記第 10 号様式) |
| イ 一般定期・生活習慣病健康診断の結果及び精密検診該当者名簿(診察) | (別記第 10-1 号様式) |
| ウ 健康診断結果に基づく健康管理区分判定一覧 | (別記第 34 号様式) |
| エ 健康診断結果通知書(保健指導票) | (別記第 11 号様式) |
| オ 健康診断結果通知書 | (別記第 11 号様式) |
| カ 精密検診依頼書／精密検診受診票(一般) | (別記第 12 号様式) |
| キ 精密検診依頼書／精密検診受診票(診察) | (別記第 12-1 号様式) |
| ク 精密検診依頼書／精密検診受診票(血液) | (別記第 12-2 号様式) |
| ケ 精密検診依頼書／精密検診受診票(胸部・胃部) | (別記第 12-3 号様式) |
| コ 精密検診依頼書／精密検診受診票(便潜血) | (別記第 13 号様式) |

(2) 健康診断実施結果の送付

受注者は、受領した健康診断実施結果を確認後、10(1)オからコと、次のサからセを個人毎に封入し、10

(1)アからウとともに別紙「受診票及び結果通知送付先一覧」の「送付先1」欄へ送付する。

また、10(1)エを「送付先2」へ送付する。

サ 検査項目の説明と標準値(全員)

- シ 肝炎ウィルス検査勧奨パンフレット及び健康管理区分について(全員)
- ス 医療機関用チラシ(全員)
- セ その他発注者が指示するもの

(3) 報告書の提出

受注者は、健康診断を実施し、健康診断実施結果を送付したものについて、毎月、各検査項目毎の巡回健康診断を実施した人数(以下「健診人数」という。)等を記載した報告書を速やかに発注者に提出し、その確認を受けなければならない。

11 エックス線フィルム及び心電図の提供

受注者は、職員の精密検査及び判定結果の確認等に発注者が必要と認めた場合で、発注者からエックス線フィルム(原本)の貸出し及び心電図(写し)の提供についての要請があった場合は、発注者に提出すること。契約期間が満了した場合においても、引き続き5年間は同様の取扱いとする。

なお、詳細については別途協議する。

12 精度管理

(1) 受注者は、健康診断品質の維持・向上に努めるとともに、次の項目について発注者が実施状況等の報告を求めた場合は、発注者が指示する方法により速やかに報告すること。

ア 検査結果の正確性を確保できるようにするための内部精度管理及び外部精度管理。

イ 健康診断を実施する者の知識及び技能の向上を図るための研修及び資格の取得。

ウ 検体検査を外部の検査機関に委託している場合は、委託先に対する管理監督。

(2) 次年度以降に他社が巡回健康診断業務を受注した場合、今年度の検査結果との比較可能性を担保すること。

13 留意事項

(1) 各実施会場で受診する職員は、会場となった所属の職員以外の職員や、5のアの名簿に記載されていない職員(年度途中で採用された職員等)が受診することがある。

また、複数日にわたって実施する会場は、各日の受付人数に変動があるため、留意すること。

(2) 年度途中で人事異動した職員については、受診票は異動前の所属名となっていることから、受診者本人に手書きで訂正させる等、新しい所属名で対応すること。

(3) 健診当日は、道の産業医、看護職等の健診担当職員が立ち会う場合がある。

14 改善命令及び契約の解除

発注者は、当該業務処理要領の処理を満たさない健康診断実施状況であると判断した場合、受注者に対し口頭又は書面により業務の改善を求めるものとする。

なお、改善見込みが無いと判断した場合は、発注者は、当該契約書第 13 条に基づき、本契約を解除できるものとする。

15 その他

(1) 道庁別館会場の健康診断については、北海道本庁舎及び別館庁舎敷地内駐車場と検診車用電源は使用できないことから、検診車等の駐車場所及び電源は受注者自ら確保すること。なお、検診車は道庁別館道庁又は本庁舎に隣接し、道庁別館から近い場所に配置することとし、道路使用許可申請等必要な手続きを行うこと。

また、道庁別館会場は基本的に検診車2台を配置することとし、当日の受付人数により、検診車の追加等の対応を行うこと。

(2) 2の「巡回健康診断実施会場一覧」、6(1)及び 10(2)の「受診票及び結果通知送付先一覧」の所属名の名称等については入札公告時点における内容であり、名称の変更等があった場合は、別途指示する。

(3) 市町村が実施する「風しんの追加的対策」に係る風しん抗体検査については、居住する市町村の無料クーポンを持参した職員に限り健康診断の血液検査と同時に抗体検査を実施することとし、その他取扱い等は別途協議する。